

平成 28 年度大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業」アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化	
<b>ASEAN と日本を繋ぐ</b> <b>「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム</b> <b>実施報告サマリー</b>	
派遣・受入期間	2018 年 11 月 7 日(水)～2018 年 11 月 15 日(木)
派遣・受入国	ラオス
連携大学	ラオス国立大学
<b>派遣</b> ・受入学生数	9 名
参加学生数 (派遣先での相手国連携大学の学生)	13 名
プログラム概要	日本とラオスは、異なる社会経済文化を持つ国だが、都市から離れている農林中心の地域では、持続可能な地域づくりのあり方が共通問題点の一つとなっている。そこで互いに協力研究することを目指し、名古屋大学学生とラオス国立大学生は、その問題を比較し、対策を考えるため、見地での体験調査を実施。本年 7 月、名古屋大学生らとラオス国立大学の学生 2 名とともに、岐阜県加茂郡でフィールド調査を実施。また、上記日程でラオスの首都ビエンチャン・サントン郡でも同様に農村住民へ聞き取り調査を実施。学生同士の意見交換や相互理解を促進させながら研究調査を進めるプログラムとなっている。
スケジュール概要 (事前・事後の教育も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 月～10 月：事前研修として講義、事前調査、オリエンテーション</li> <li>・11 月 7 日～15 日：ラオスの首都ビエンチャン・サントン郡での実地研修・調査、ラオス国立大学でのワークショップ、調査報告会</li> <li>・12 月 7 日：事後研修：岐阜県加茂郡でのグループワーク（国内フィールド地との比較）、最終報告会</li> </ul>
産学連携：	サントン郡事務所、サントン郡交通管理局、ラオス国立大学社会科学部
成果報告 (学生の成長や相手国との連携について)	本年 7 月に実施した短期受入プログラムの継続プログラムとして、本学学生とラオス国立大学の学生が同じメンバーで調査を実施したことにより、学生同士の交流や相互理解が更に促進された。また各グループは、日本学生とラオス学生が A/B 班で分かれ、それぞれのテーマ(村生活とマーケット/村での食生活)に沿って聞き取り調査を実施した上で現状と課題を整理することにより、日本の農山村における持続可能な地域づくりを考える上でのヒントを得ることができた。本プログラムを通して得た知識や経験は、今後の各参加学生の研究や卒業後のあらゆる進路において、有効に活用されていくことが期待される。
実施部局	名古屋大学 環境学研究科
実施責任者	横山智（環境学研究科・教授）